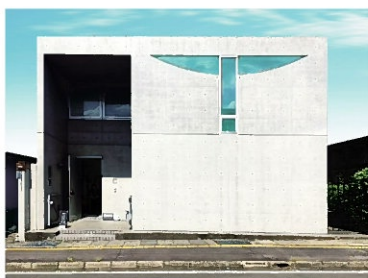




ARCHITECTURE REVIEW



建築見て歩記 その106 追悼:磯崎新2 1931-2022 91歳永眠
福井県勝山市にある「勝山の住宅」です。すぐ近くにある磯崎新氏設計の「中上邸」を見た施主が、そこと同様にアートを展示する住宅をと依頼し設計が進みましたが、最終的には、磯崎アトリエの所員であった伊東孝氏に引き継がれて、1986年に完成しました。つい最近に「nimbus」というショップとして再生したことで、内部空間も体験出来るようになりました。

CURRENTLY WORKS



弊社デザインの電気工事会社・・・初心に戻す外観リニューアル
27年前に、懇意にしている電気工事会社から本社のデザインを依頼され3階建ての建物を設計しました。竣工時は、コンクリート素地の外壁材とアルミを多用した無彩色に、ポイントカラーとしてオレンジ色を選択していました。その後、一旦カラフルな外装になりましたが、今回相談を受け元のイメージに戻そうと提案して、少し色味のあるグレーを選択しました。

PRIVATE TOPICS



藤原のこだわり その22

鈴虫寺(華厳寺)は京都にある臨済宗のお寺です。鈴虫寺という名前ですが当時の住職が、寿命の短い鈴虫が懸命に鳴く声から悟りを開き、それを戦後の復興に役立たせたいという思いからこの名前が付いたそうです。さらにここにあるお地蔵さんは草鞋を履いており、願をかけた人のところに出向いてくださり、何でも一つお願いを聞いてもらえると有名です。

EDITIONAL NOTE

「目に青葉 山ほととぎす 初鯉」という句は、春の訪れの喜びを視覚・聴覚・味覚で表しています。初物には生気がみなぎっていると考えられ、それを逸早く食する事で寿命が延びるとされています。また、初物とひとくくりせず、走り・盛り・名残りと分けて考えるところが日本人の繊細さです。

編集担当：太田・藤原、監修：岡島